

調 査 視 察 報 告 書

平成 28 年 6 月 20 日
建 設 委 員 会

日 程	平成 28 年 5 月 16 日 (月) ~ 18 日 (水)
視 察 先 及 び 調 査 項 目	愛知県東海市 (16 日午後 1 時 30 分 ~ 3 時 30 分) ・ 浸水対策について
	静岡県沼津市 (17 日午前 10 時 ~ 12 時) ・ 浸水対策について
	富山県富山市 (18 日午前 10 時 ~ 12 時) ・ コンパクトシティ戦略による都市計画について ・ 中心市街地の活性化策について
参加委員等	福村暉史委員長、小谷繁雄副委員長、石東悦子委員、肝付隆治委員、 田村優樹委員、林三弘委員、水嶋一明委員
調査概要	<p>愛知県東海市 対応者：水道部次長兼下水道課長、同課主幹、建設部土木課主幹ほか</p> <p><浸水対策について> 東海市の主な浸水被害とその要因、及びその対策事業について説明を受け、その後現地を視察した。</p> <p>(説明の概要) 東海市では、平成 12 年と 21 年に、台風や豪雨による大きな浸水被害を受け、これを契機に過去の浸水被害の要因を分析し、平成 22 年度に東海市浸水対策事業計画を策定して河川整備、下水道整備等の取り組みを開始した。 しかし、計画は策定したが国庫補助も付かず、整備が遅れ事業効果が上がらないなどの課題が生じたことから、国土交通省の「100mm/h 安心プラン」に登録し、東海市大田川流域における浸水対策プランを策定した。</p> <p>(質疑応答) ● 「100mm/h 安心プラン」の登録申請について ・ 認定までに 1 年を要した。 ・ 地域ごとに浸水の原因が違うため、分割して行った。 ・ 国からは、計画の中に住民自らが命を守る対策を入れるよう求められた。</p> <p>(現地視察) 東海市富木島町伏見地区の姫島公園調整池建設工事現場を視察 河川への流出抑制と浸水被害を軽減することを目的に、都市公園内に一時的に雨水を貯留する調整池を建設。</p>
	<p>静岡県沼津市 対応者：建設部河川課長、同課浸水地域対策係長ほか</p> <p><浸水対策について> 沼津市の「沼川・高橋川流域における 100mm/h 安心プラン」に係る説明を受け、その後対策事業の現場を視察した。</p>

(説明の概要)

沼津市は、近年の急速な市街地拡大により遊水・保水機能が低下し、集中豪雨などによる浸水被害が発生。浸水地域は市の中心を流れる二級河川の沼川と高橋川流域に集中しており、平地の勾配は複雑に絡み合っている。

このため、河川改修だけでは被害の解消が困難であることから、県と協議し、国の「100mm/h安心プラン」に登録申請して平成25年に認可を受けた。

(質疑応答)

●この制度のメリットは何か

- ・最大のメリットは、社会資本整備総合交付金による支援であり、浸水対策事業に特化して策定される整備計画に対して重点配分される。

富山県富山市

対応者：都市整備部都市政策課都市計画係長ほか

<コンパクトシティ戦略による都市計画について>

富山市の「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」について説明を受け、市の賑わいの核となる全天候型の多目的広場であるグランドプラザを視察した。

(説明の概要)

富山市は、県庁所在地の中では最も低密度な市街地とされ、ごみ収集や除雪等都市管理コストの上昇、過度な自動車依存と公共交通の衰退などの課題を抱え、車を自由に使えない住民にとって極めて生活しづらい街となっていた。このため、「富山市都市マスタープラン」を策定し事業を進めてきた。

●富山市のまちづくりの基本方針

鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集中させることにより、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを実現する。

【実現のための3本柱】

- ①公共交通の活性化
- ②公共交通沿線への居住推進
- ③中心市街地の活性化

●富山ライトレールの整備

利用者の減少が続いていたJR富山港線（鉄道）を、公設民営化により日本初の本格的LRTシステムに蘇らせた。また、北陸新幹線整備を契機に、富山駅南側の市内電車と北側のライトレールを富山駅高架下で接続し、LRTネットワークの形成を図った。

●北陸新幹線開業を契機とした富山駅周辺整備

富山駅周辺約10.4haの区域で土地区画整理を行い、駅前広場を整備。

●グランドプラザの整備

積雪寒冷地の気候に配慮し、まちの賑わいの核となる全天候型の多目的広場を整備。年間82.4%がイベント等で使用されている。